

収穫したお茶 楽しみ

茶の産地として知られる南木曾町にある蘇南高校で17日、新入生約70人と新たに赴任した教諭らが、校内の茶畑で茶摘み作業を体験した。地域の伝統産業を学ぶ恒例の

授業で、1時間ほどで10キロ弱の茶葉を収穫。町内の製茶工場で加工して自分たちで味わうほか、学校を訪れる人のもてなしにも使われる。
(酒井大二郎)

蘇南高 伝統学ぶ茶摘み体験

同校の敷地内には約二畝の茶畑が広がる。生徒らはシャージャイ姿でビニール袋



校内の茶畑で茶葉を摘む生徒ら＝南木曾町の蘇南高で

った。

下浦さんは茶摘みの基本に「一芯三葉」という言葉を挙げ、枝の先端にある新芽周辺を摘み取るようアドバイス。熱心に取り組んでいた近藤巧実さん(二毛)は「茶摘みも初体験だし、『一芯三葉』も初耳。作業は楽しい」。尾上侑さん(二毛)も「自分で収穫したお茶を飲むのは楽しみ」と笑顔で話した。

本年度から赴任した吉田恵教諭(三毛)は「今まで県内の三校で勤めてきたけど、校内に茶畑があるのは初めて。伝統産業をより身近に感じられるいい取り組みでは」と感心した様子。

作業を見守った八角裕之教頭は「地域を愛し、地域に愛される生徒を育てることとは学校の教育目標の一つ。作業を通じてそうした気持ちも養ってくれたら」と話した。